

私達業界が木更津築地地先へどんな形態で大商業施設が姿を現わすのかを不安と期待で待つ様に——新日鐵の城下町として 派手な買収によって巨大鉄鋼メーカーミタルは社外重役にアメリカの強力な投資ファンド「ウルバー、ロス」を迎えた。

そのロスは、アメリカで企業買収、再生事業家として知られアメリカの鉄鋼メーカー「インターナショナルスチール」グループを再建してミタルへと売却、その手腕を買われて社外重役となった敏腕家であります。

そのロスが語るミタルの方針は、「アルセロールを合併したので欧州で自動車、家電向きの高品質の鉄鋼が生産できるようになった。ミタルは、中央アジア、東欧、アメリカ、中国と世界各地に低価格で生産する製鉄所を27ヶ所も持ったので、この空前の世界最大のメリットは、長期的見通しが立て易くなった。今後、鉄の需要は益々伸びるのでこの豊富な設備で生産を更に拡大していきたい。」

アルセロール合併後は、自動車産業に大きな影響を及ぼすようになるだろう。すでにアメリカでは ISG を通してゼネラルモーターズから年間最優秀取引賞をもらった。欧州でも合併したアルセロールを通して日産、トヨタとの取引は拡大できると期待している。アジアには特別興味を持っており 中国ではすでに合併事業を始めている。新日鐵とアルセロールは深い関係があるが だからミタルが日本企業を買収するというわけではない・・・と言う。このミタルのこれ以上の巨大化に対して欧米は独禁法を持って押さえ込むと思われるので残されたアジアの三強 新日鐵・ポスコ・JFEは次の買収候補となるだろうと言われている。

創業者ミタルは「友好的な合併」を唱えているが、彼のおぼろな経歴を見ると規制・慣習の強いインドを脱出して現在はインドネシア当りに国籍をおいて各国政府、ヘッジファンドを説得してわずか30年で巨大鉄鋼企業を創った世界的野望を持つ辣腕家でミタル一族が43%の株を保有する大家族企業であります。

一方、新日鐵三村社長は、巨大鉄鋼メーカー誕生にファンドの脅威を感じるが規模的拡大を重視する経営に舵を切り 技術とコストで総合力世界一を目指すと言われています。

住友金属社長は、鉄鋼業は50年先を予測する展望を持たないとやって行けないと説いておりますが、素人の私の目から見ると、ミタルはまだ鉄鋼の需要は拡大すると予測して世界各地へと鉄鋼所の買収を進めて歴史的にも小さいメーカーだと好不況の需要に対応しにくいので需要の変化に対応できる巨大メーカ

ーの世界的シェア20%を狙ったと言われている^{あつもの}。 ^{なます} 糞に懲りて 膾を吹く様に日本のメーカーはかつてのバブル崩壊等の失敗を経験したので鉄鋼の需要は、北京オリンピック、上海万博までと？予測して新高炉（築造10年1千億円）の建設、国外の買収はしなかった？自動車産業が国外へ派出した時、一緒に製鉄所も進出すべきだったのでは—と思うのは全く素人の考えであります？また「月刊現代」によれば最近CITIC（中国国際信託公司）— 実際には中国軍事委員会の経営 — は、毎年大量の見学者を日本の各鉄鋼、特殊鋼メーカーへと送り込んで物色をしているのは中国軍の軍備拡大強化のためには日本のハイテクの塊である特殊鋼製品は垂涎のまゝであります。豊富な資金力を持つミタル、CITICパシフィックはこれまでの様に日本を狙うとなれば札束で横面を叩く TOB となるでしょうから新日鐵株は800円前後を仕掛けるだろうと巷間で言われています。

日本の防衛策は、資金力、法も全く無力ですから先述した様にあとは垂直合併をトヨタとすべき時かもしれませぬ—

—文中は、日経ビジネス、月刊現代から引用させていただきました—